

令和4年度 大田区立馬込中学校 学校経営方針

大田区立馬込中学校
校長 阿部 仁明

1 学校教育目標

人間尊重を基本とし視野の広い人間形成をめざして

- 1 健全な心身を育てる
- 2 進んで学ぶ態度を育てる
- 3 豊かな心情を育てる

2 学校教育目標の具現化にむけて

◎ 目指す学校像

《生徒・保護者・地域の信託に応える》

『安全・安心 基礎・基本 正しい言葉 自己肯定感 地域の信頼 』

- 生徒にとって学校に行くことが楽しみになる学校
- 保護者にとって子どもを通わせて本当によかったと思える学校
- 地域にとって誇りとなる学校
- 教職員にとって子どもたちの成長に誇りと働きがいを感じられる学校

◎ 目指す生徒像

《グローバルに活躍できる人材に成長することを目指し、すべての教育活動において、学力伸長、心身錬磨、社会貢献を意識する生徒》

- 心身健全な生徒
 - ・ 自他の命や健康の保持を大切に、自尊感情や豊かな情操を培う
- 進んで学ぶ意欲と態度をもつ生徒
 - ・ 基礎学力を身につけ、思考力を培い、見通しをもって主体的・発展的に学ぶ
- 豊かな心情を育む生徒
 - ・ 個性を発揮し、多様性を認め、協働する中で実践的コミュニケーション能力を育む

◎ 目指す教師像

《教育のプロとして誇りと情熱をもつ》

- 組織的対応をモットーに、誠実 丁寧 迅速 報告 連絡 相談 記録を徹底して職務に臨む教師
- 豊かな人間性と人権感覚を発揮する教師
- 職責を自覚し、自己研鑽に励み、服務規律を遵守する教師

3 学校経営の基本方針

「大田区教育委員会の主要施策」をふまえ、本校教育目標の実現と、生徒と教師がともに学び合う学校づくりを目指す。『安全・安心 基礎・基本 正しい言葉 自己肯定感 地域の信頼』をキーワードに全教職員の力を結集し、子供たちが自律し生き生きと輝ける学校経営に努める。

- 全教職員が組織として団結し、協働の意識をもって生徒の健全育成と学力の定着・向上を保障する。
- 教員は学習指導要領を遵守した教育活動を行い、指導と評価が一体となった学習指導を実践する。
- 生徒の主体的・実践的な態度を育み、協働する中で自尊感情を高める学年・学級経営の充実を図る。
- 特別な支援・配慮を要する生徒について、全教職員の共通理解と教員個々の専門性を活用して、生徒一人一人に最適な指導を行う。
- 学校・家庭・地域との連携を深化させ、家庭とともに生徒を育み、地域の中で生徒を育成する開かれた学校づくりを行う。

4 本年度の重点

〈安全で安心な学校づくり〉

生徒が安心して生活できる学校環境づくりを心がけ、施設・設備の点検充実を図るとともに、危機管理には細心の注意をはらう。また、心身ともに健康でたくましい生徒の育成に努め、馬込中学校への帰属意識を一層高める。

＊生徒指導は学校組織全体で丁寧に取り組む。

＊給食に関するアレルギー対応等、生徒の状況を確実に理解したうえでの丁寧な対応を行う。

＊いじめ等の訴えや、教育相談が必要な生徒へは親切・丁寧・迅速に対応する。（いじめ防止基本方針）

＊特別な支援を要する生徒に関する情報を全教職員で共有し、可能な限りの合理的配慮を行う。

＊不登校生徒対応の校内体制を整備するとともに、関係諸機関と積極的に連携した支援を行う。

＊防災教育推進体制を整え、かけがえのない自他の生命尊重や健康・安全に対する意識や態度を養う。

〈教科指導等〉

学校教育の基盤は教科指導であり、授業の充実こそが教員が果たすべき第一の責務であることを再確認する。使い古された言葉ではあるが、「教師は授業で勝負する。」この言葉を常に念頭に置き、国都区の諸施策を踏まえた授業実践を通じて学力の定着を図るための指導方法及び指導内容の改善に努める。

＊基礎・基本の学力の定着や発展的学習への啓発をはかり、個に応じた指導を充実させる。

＊適正な評価（新学習指導要領の指導と評価の一体化への実践）

＊国・都・区の学習学力等調査を的確に分析し、授業改善プランの作成及び日々の授業改善に努める。

＊ICTを積極的に活用した教科指導方法の研鑽・実践に努める。

＊教育活動全体で正しい言葉・言葉遣いを意識し、生徒の人権に配慮した言語活動の充実を図る。

〈道徳教育〉

世間では自他の生命をおろそかにする風潮や規範意識のさらなる低下が社会問題化している。学校の全教育活動を通じて道徳教育を進める。また、道徳授業地区公開講座や地域行事への参加等地域の教育力を最大限に活用し、生徒一人一人が地域社会の一員として必要な、社会性や規範意識を身に付けられるよう実践を重ねる。

＊道徳の全体計画、年間指導計画及び評価基準に基づき、全教員で充実した道徳授業の実践に努める。

＊道徳授業地区公開講座等を充実させ、保護者・地域とともに生徒の規範意識の向上に努める。

〈総合的な学習の時間〉

総合的な学習の時間は全教員で指導にあたり、培ってきた方法や情報を生かし、地域等の教育力を生かしながら、課題発見・解決能力の伸長を図る指導方法の工夫・改善及び内容の充実を努める。

〈特別活動〉

学級活動や生徒会活動、学校行事は学校生活の要であり、学級・学年及び学校への帰属意識を高める最良の教育機会である。学級・学年・生徒会活動においては主体性や社会性の醸成を図るとともに、学校行事では学校にかかわるすべての大人の協力を結集し、生徒のための教育活動を創造する。

◎部活動

学校行事とともに、部活動の活性化も生徒にとっての学校生活の充実につながり、学校への帰属意識を高める活動である。自主的・自律的な活動をとおして、自己肯定感や自己有用感を育む。

＊学習指導要領等に則り、部活顧問指導は原則として全教員が運営にかかわる。

＊部活動の最終目標は、対外試合等における勝利や受賞ではなく、生徒の健全育成の一助であることを全教員が共通認識し指導にあたる。

＊生徒に充実感や達成感を味わわせることをとおして、生涯にわたって運動・文化的活動に勤しむ素養を培わせる。

〈生活指導〉

生活指導の基本を「あいさつをする」「人の話を聞く」「時間を守る」「責任をもつ」「言葉遣いを意識する」に置き、規律ある校風を創る。さらに、善悪の判断、社会的な規範意識等を育て、いじめや非行、暴力行為等を絶対に許さない学校文化を創る。

- * 情報交換を密にし、全教職員で一貫した指導を徹底する。
- * 教育相談的な技法を身に付け、生徒理解を深めることにより信頼関係の醸成を図る。
- * SCの活用を図り、家庭や地域社会に向けて教育相談的指導の啓発を図る。
- * 関係諸機関との連携体制を構築し、生徒への多様な支援を可能とする環境整備を推進する。
- * セーフティー教室や道徳授業地区公開講座等さまざまな場面をとらえて保護者・地域との連携・協働の取組を充実させることにより、生徒の社会性や規範意識の向上に努める。

〈進路指導〉

生き方指導、キャリア教育としての進路指導を実践し、勤労の尊さを理解させるとともに自己実現を目指す生徒を育む。

- * 3年間を見とおした進路指導を計画的に行う。特に、職場体験学習等の体験学習をとおして、自己の生き方への自覚を深め、将来への展望を図らせる。
- * 地域教育力（事業所・ゲストティーチャー等）を活用した生きた進路指導・キャリア教育を実践し、主体的に進路を選択する能力・態度を身に付けた生徒の育成を図る。

〈特別支援教育〉

- * 障害者差別解消法をうけ、校内特別支援教育体制の一層の充実を図る。特別支援教育コーディネーターを中心に組織的支援体制を整えるとともに、特別支援学級と通常学級の交流活動を深め、一人一人の個性を尊重した環境整備に努める。
- * 特別支援教室（サポートルーム）での通級指導を丁寧に行う。また、巡回指導教員による通級を行う生徒への個別指導や通常学級でのサポートをとおして、支援や配慮が必要な生徒への指導を充実させるとともに、ユニバーサルデザインの視点を踏まえた全教職員への情報提供を行う。

〈オリンピック・パラリンピック教育〉

障害者理解の学習やさまざまな経験を有する地域人材との交流をとおして、心のバリアフリーやボランティア精神を伸長させるとともに、知・徳・体の調和のとれた成長を促す。また、地域文化に愛着をもち、豊かな国際感覚を身に付け、グローバルに活躍する素養を育成する。

〈食育・生活習慣〉

健康的な心身と豊かな人間性を育むとともに、我が国の伝統文化や季節感への感受性を醸成する。また、給食指導を中心として、正しい食習慣の醸成を図ることにくわえて、食に関する知識と選択する力を修得させるとともに、「早寝・早起き・朝ごはん」等生活習慣確立への意識向上を図る。

〈保護者、地域との連携〉

- * 学校支援地域本部「アシスト馬中」と連携し、地域の力を学校教育に生かす。
- * 連携小学校との合同研修会を年4回実施する。また小学生の中学校体験を実施して、小中の連携を深め、小中一貫教育を推進する。
- * 土曜授業日を5日間設定し、学校公開日とする。学校公開日には、できる限り保護者も学べる機会を提供する。
- * 保護者アンケートの結果を保護者会でフィードバックし、保護者と共に学校づくりに取り組む体制を作る。

〈適正な予算の執行〉

健全な学校運営を実現するための予算編成を行う。また、年度計画に従って予算の執行が適正に行えるよう、学校予算の執行状況を定期的に確認し計画的な執行とコスト削減に努める。

〈サービスの厳正〉

公務員に注がれる厳しい視線を意識するまでもなく、全体の奉仕者であることを常に念頭に置き、信用失墜行為の防止等に努める。また、馬込中学校の教職員は、常に「誠実・丁寧・迅速」な対応を心がける。さらに、若い世代の教職員の育成に全校体制で取り組む。